

## 市民・市内企業の環境に関する意識調査結果がまとまりました

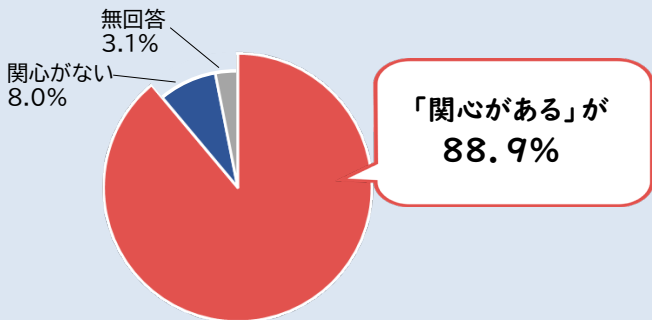
引き続き市民の多くが環境に関心を持ち実践・SDGs 貢献の視点を持った事業活動を実践する市内企業が増加

横浜市では、市民及び市内企業を対象に、環境に対する意識や環境に配慮した行動の実施状況等を把握するアンケート調査を実施しています。このたび、令和7年度の結果がまとまりました。引き続き市民の環境への関心は高く、市内企業ではSDGs 貢献の視点を持った事業活動が広がっています。調査結果は、今後の環境分野の市政運営や政策立案の基礎資料として活用します。

### 調査結果のポイント

#### 市民対象

##### 環境や環境の取組に関心がある市民は88.9%



##### プラスチック製品や容器包装は「プラスチック資源」ごみに分別している人は96.4%

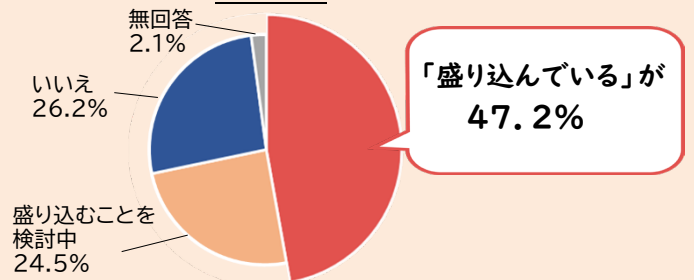
(「している」「たまにしている」人の割合の合計)

##### 生物多様性について、言葉の認知度は69.6%

(言葉の意味まで知っていた38.3%、言葉の意味は知らなかったが言葉は聞いたことがあった31.3%)

#### 企業対象

##### 経営方針等に環境配慮や取組・目標を盛り込んでいる企業は47.2%



##### SDGs (持続可能な開発目標) への貢献の視点を持った経営、事業活動をしている企業は前回(令和3年度)から12.8%ポイント増加して41.2%

##### 事業活動を継続する上で、重要と考える環境課題は「廃棄物の削減・循環経済の確立」が最多で65.9%

#### 市民意識調査の概要

- ◇期間 令和7年6月2日～25日 ※毎年実施
- ◇対象 16歳以上の市民 3,000人
- ◇方法 郵送・インターネットによる無記名調査
- ◇回答 1,469人 (回収率 49.0%)

#### 企業意識調査の概要

- ◇期間 令和7年6月18日～7月25日 ※4年に1度実施
- ◇対象 市内に本社または事業所を置く企業 3,000社
- ◇方法 郵送による調査
- ◇回答 809社 (回収率 27.0%)

市民意識調査、企業意識調査の調査結果は以下のウェブページで公開しています。  
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/>

#### お問合せ先

みどり環境局戦略企画課長 関根 伸昭 Tel 045-671-2686



**GREEN×EXPO 2027**  
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



## 2025 年度 環境に関する市民意識調査の結果（概要）

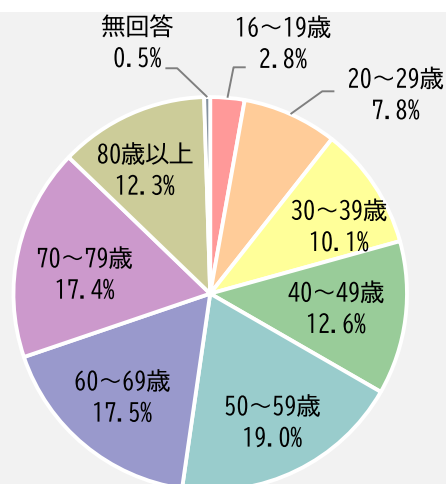
横浜市では、2025 年6月に市内在住の 16 歳以上 3,000 人を対象に、環境に関する意識調査を実施しました。調査結果は、環境管理計画や市の中期計画に掲げた目標・施策の進捗評価や環境施策の基礎資料として活用します。

注：各グラフの割合の値は、四捨五入した数値となっています。

そのため、グラフ内の数値をすべて足し上げても、100%にならない場合があります。

### ◆調査概要

- 期間：2025 年6月2日(月)～6月 25 日(水)
- 対象：16 歳以上の市民 3,000 人  
(住民基本台帳から無作為抽出)
- 方法：郵送による無記名調査  
(郵送・インターネットによる回答)
- 回答：1,469 人(回収率 49.0%)  
(内訳：郵送回答 63.2%  
インターネット回答 36.8%)

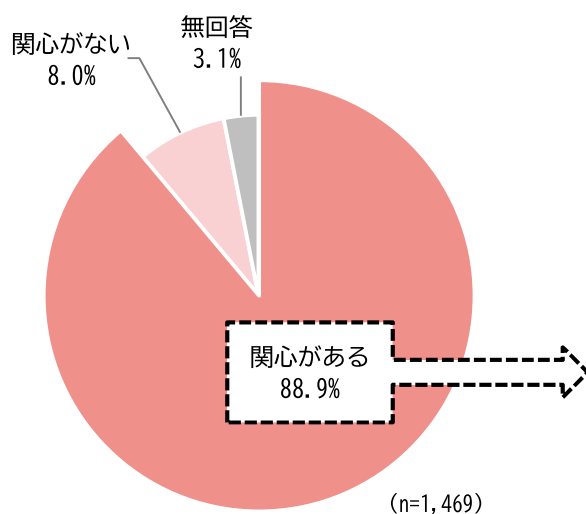


### ◆調査結果

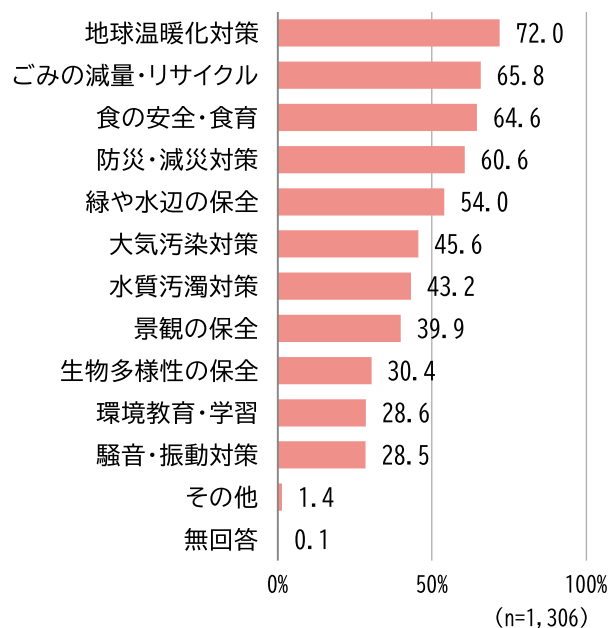
#### 1 環境や環境の取組への関心について

- ・環境や環境の取組に「関心がある」人は 88.9%
- ・関心がある項目について、「地球温暖化対策」と回答した人は、72.0%で最多

問1 環境や環境の取組に関心がありますか  
(○は一つ)



問1-A 関心がある項目を教えてください  
(○はいくつでも)【問1で「関心がある」と答えた人】

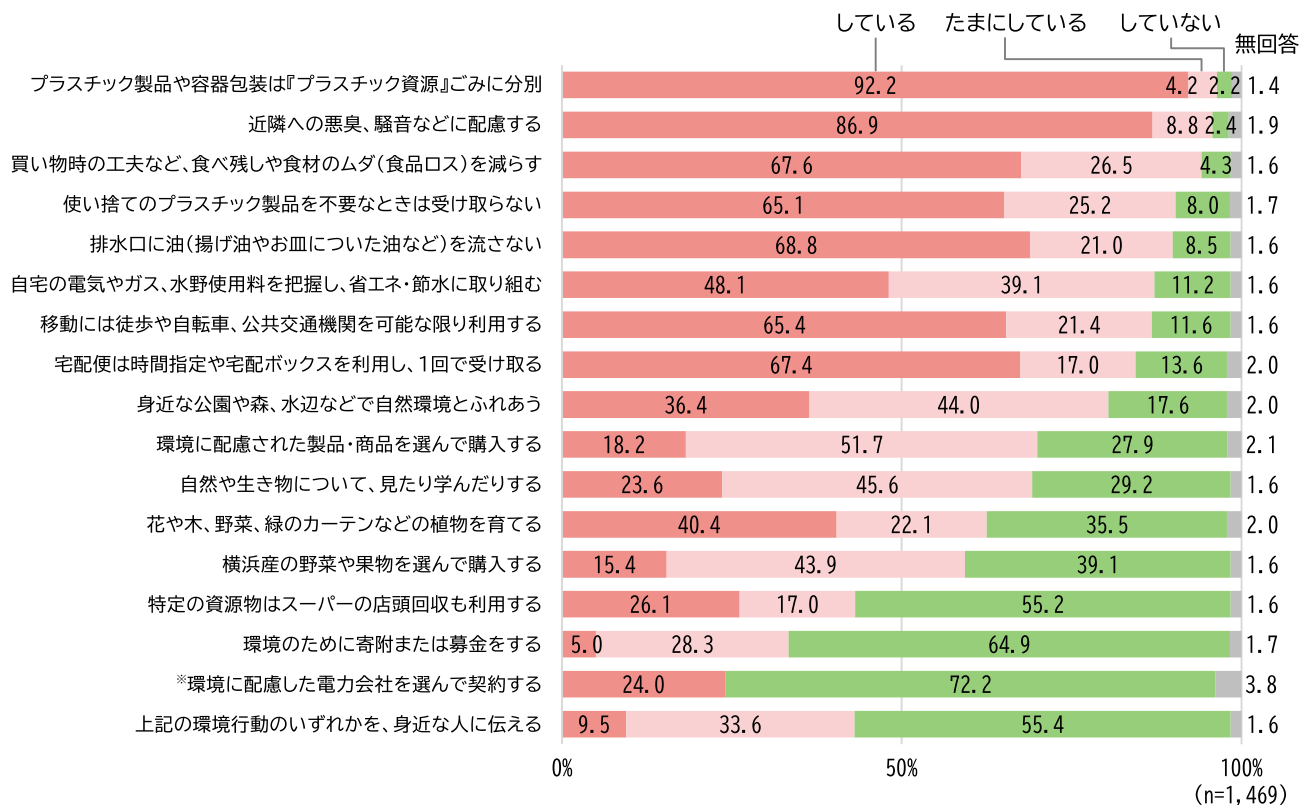


## 2 環境に配慮した行動(=環境行動)の実践状況について

- ・「プラスチックのみの製品や容器包装のごみは『プラスチック資源』に分別している」は、「している」人が92.2%、「たまにしている」人も含めると96.4%の人が実践しており、日常生活に定着した行動となってきたと考えられる
- ・「買い物時の工夫など、食べ残しや食材のムダ(食品ロス)を減らす」は、94.1%※の人が実践している

※「している」・「たまにしている」人の割合の合計

問2 普段、次にあげる個人でできる環境行動をしていますか(それぞれに○は一つ)

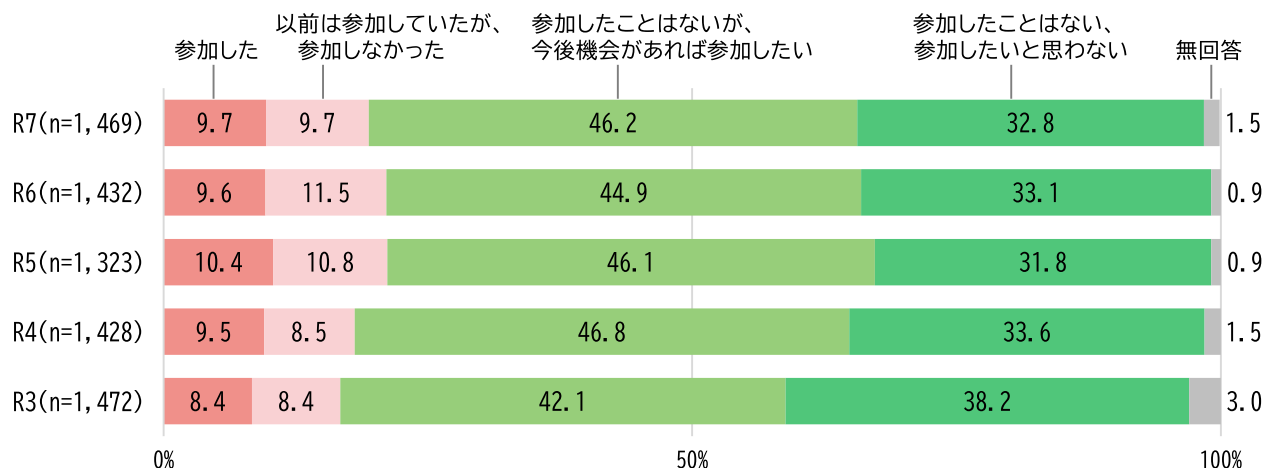


※「環境に配慮した電力会社を選んで契約する(再生可能エネルギーで発電する会社など)」は選択肢「たまにしている」がないため、省略している

## 3 環境活動や環境活動団体への参加について

- ・「参加した」、「参加したことはないが、今後機会があれば参加したい」と回答した人の合計は、過去5か年でみると5割を超えた値で推移している

問3 ここ1年間に環境活動や環境活動団体に参加しましたか(○は一つ)

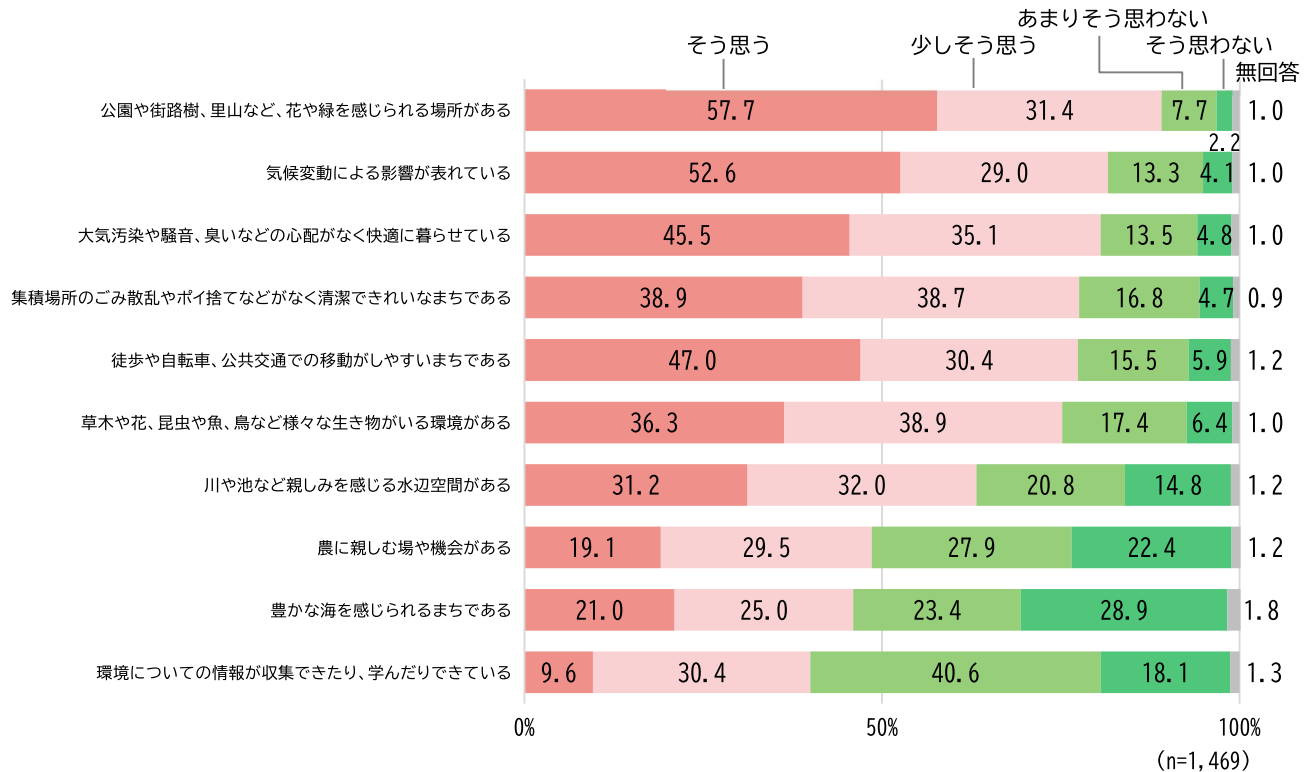


## 4 身のまわりの環境について

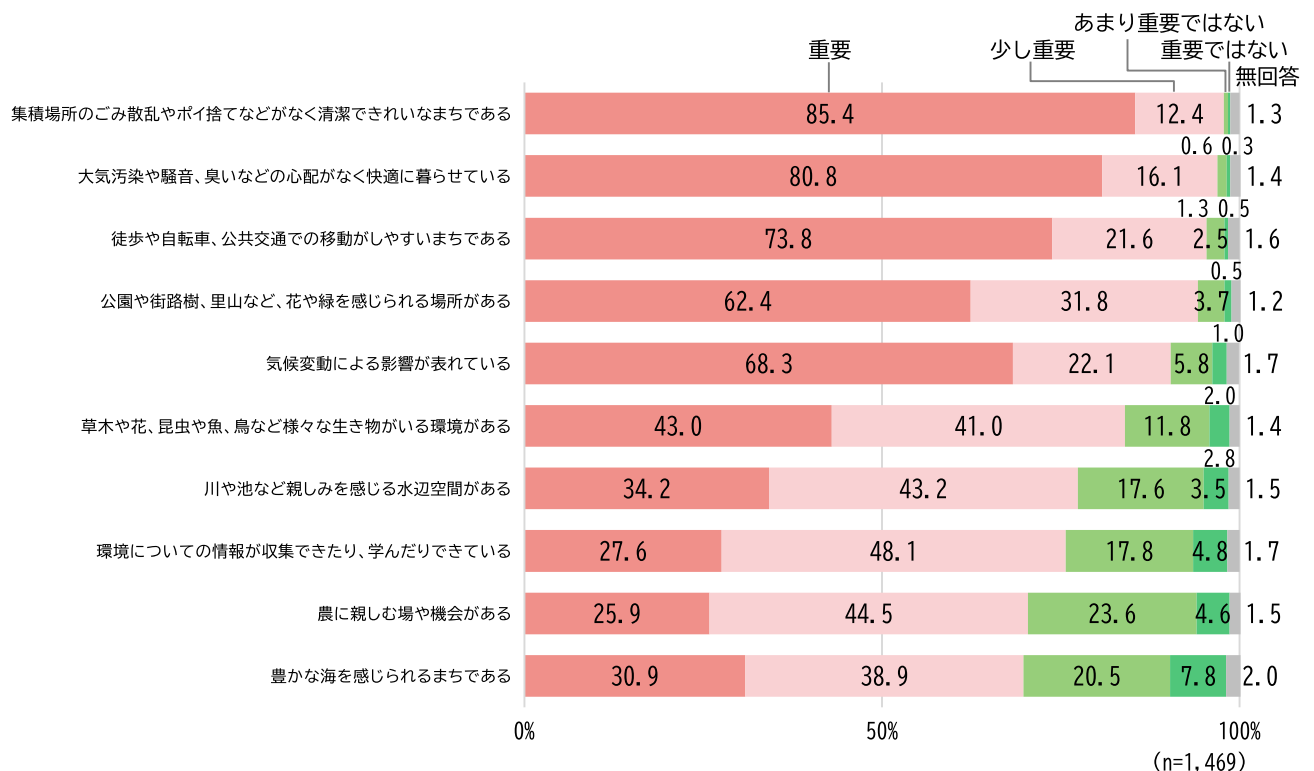
- ・「公園や街路樹、里山など、花や緑を感じられる場所がある」と感じている人は、89.1%※で最多
- ・「集積場所のごみ散乱やポイ捨てなどがなく清潔できれいなまちである」が重要だと考える人は、97.8%※で最多

※「そう思う」・「少しそう思う」または「重要」・「少し重要」と考える人の割合の合計

問5① 次にあげる身のまわりの環境についてどのように感じていますか(それぞれに○は一つ)



問5② 次にあげる身のまわりの環境についてどのくらい重要ですか(それぞれに○は一つ)

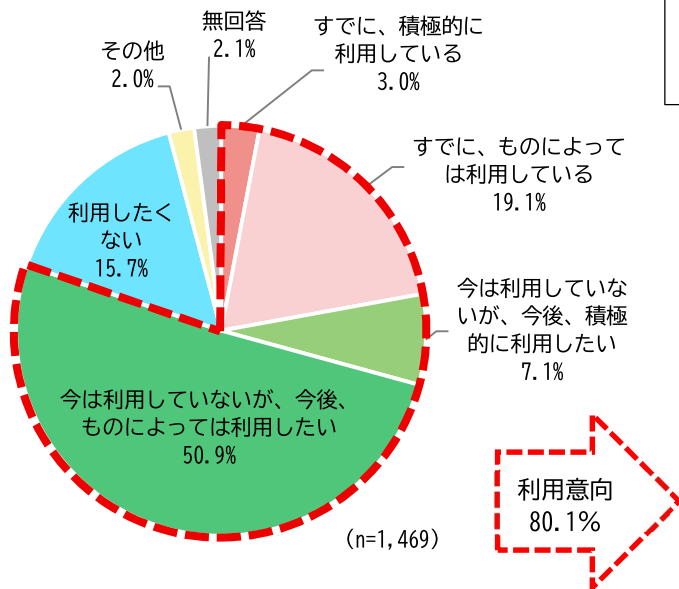


## 5 物をレンタルやシェアで利用することに対する考えについて

- ・「利用意向がある」※人の割合は 80.1%
- ・利用した、利用したいサービスの中で「車や自転車などの『移動手段』」は、58.1%で最多

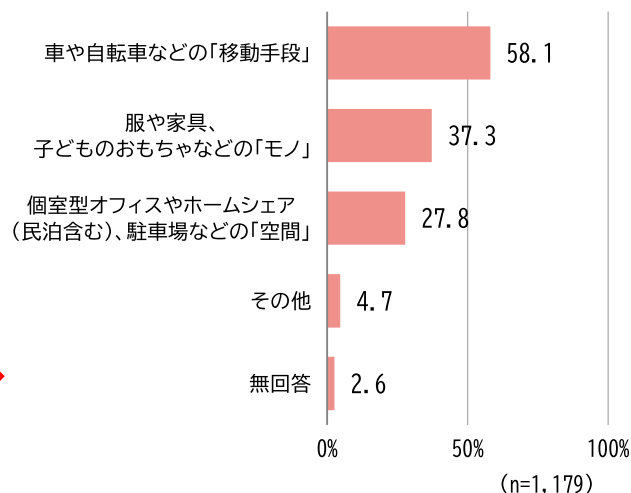
※「すでに、積極的に利用している」・「すでに、ものによっては利用している」・「今は利用していないが、今後、積極的に利用したい」・「今は利用していないが、今後、ものによっては利用したい」人の割合の合計

問4 物をレンタルやシェアで利用することについてどのように考えますか(○は一つ)



問4-A 利用したことのあるまたは利用したいサービスの対象はありますか(○はいくつでも)

【問4で「すでに、積極的に利用している」・「すでに、ものによっては利用している」・「今は利用していないが、今後、積極的に利用したい」・「今は利用していないが、今後、ものによっては利用したい」と答えた人】

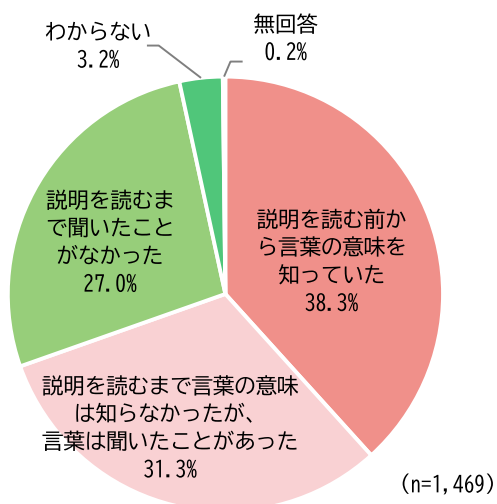


## 6 生物多様性について

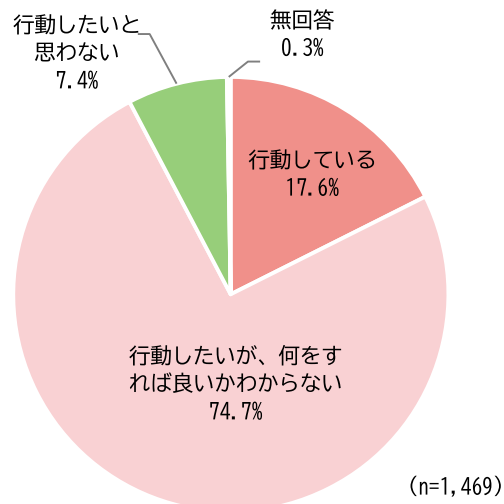
- ・「生物多様性」という言葉の認知度※は、69.6%
- ・生物多様性を守るために「行動している」割合が、2割以下に対して、「行動したいが、何をすれば良いかわからない」割合は、7割を超えている

※「説明を読む前から知っていた」・「意味は知らなかったが、聞いたことがあった」人の割合の合計

問6 「生物多様性」という言葉の意味を知っていましたか(○は一つ)



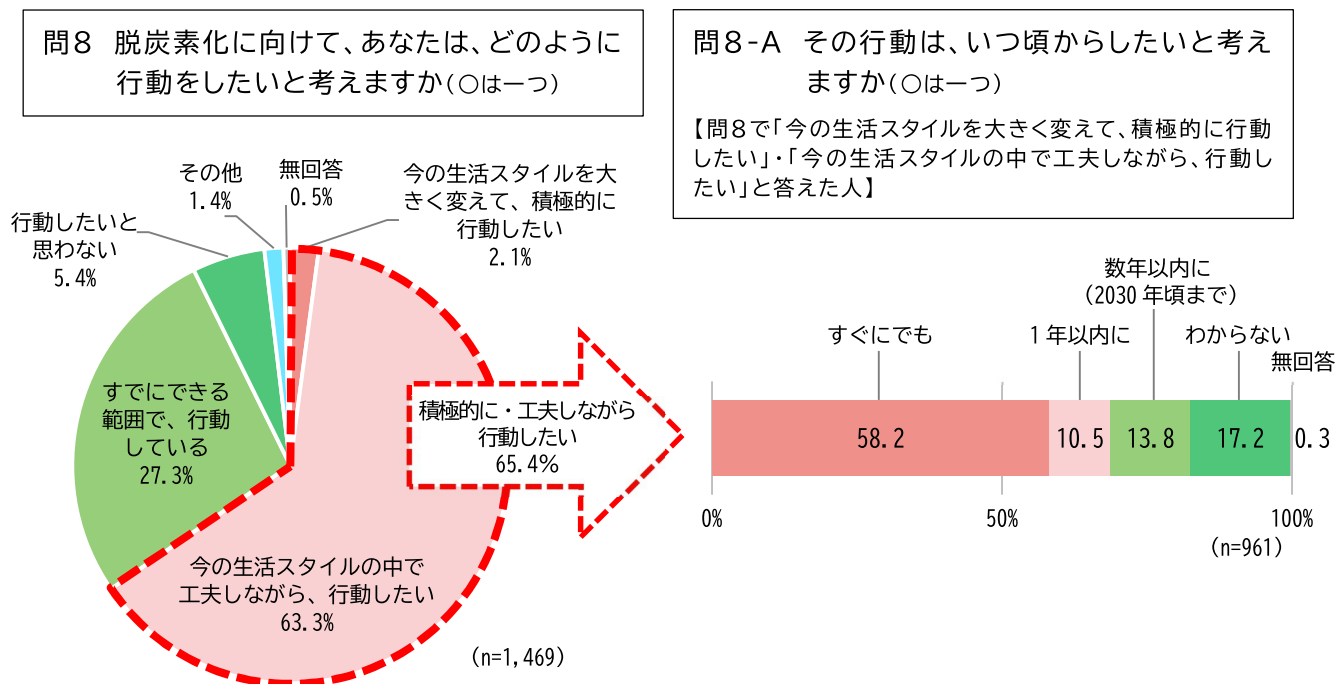
問7 あなたは、生物多様性を守るために行動をしていますか(○は一つ)



## 7 脱炭素化の実現に向けて

- ・脱炭素化に向けて、「積極的に・工夫しながら行動したい※」と考える人は 65.4%
- ・「すでにできる範囲で、行動している」人は、27.3%
- ・「すぐにでも」行動をしたいと考えている人は、5割を超えている

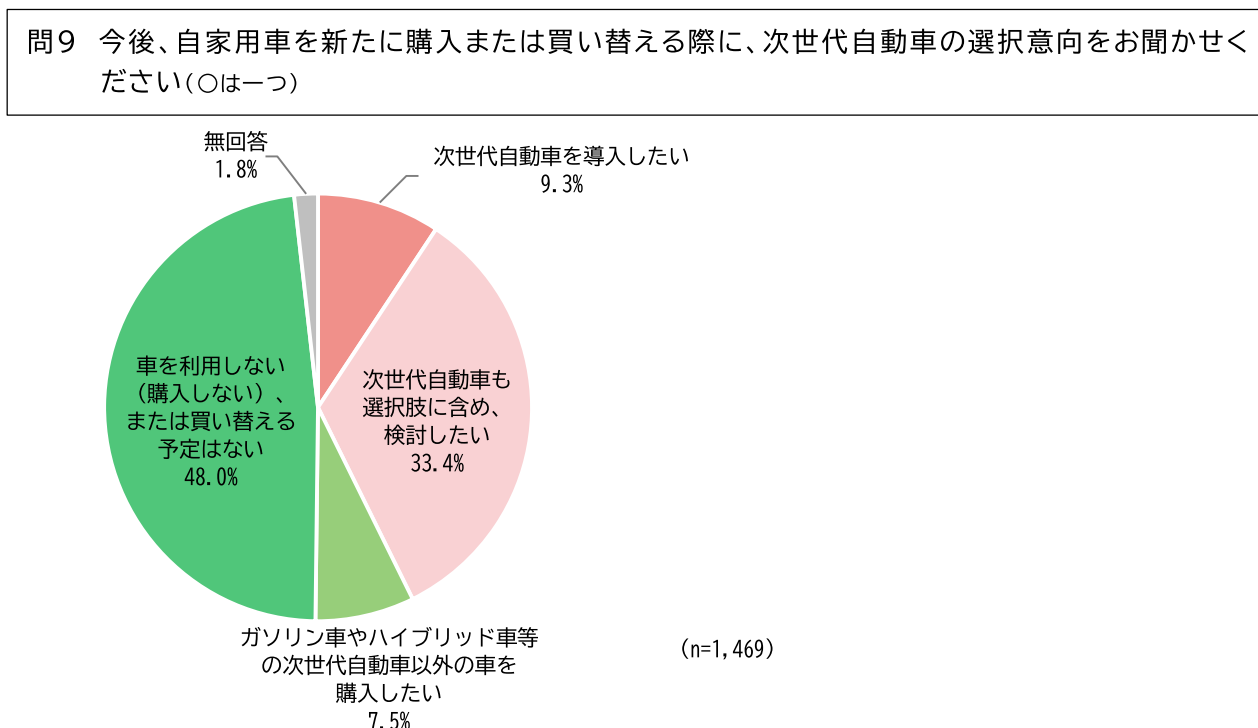
※「今の生活スタイルを大きく変えて、積極的に行動したい」・「今の生活スタイルの中で工夫しながら、行動したい」人の割合の合計



## 8 次世代自動車の利用意向について

- ・自家用車を購入または買い替える際に、「次世代自動車を導入したい・検討したい※」と考える人は 42.7%

※「次世代自動車を導入したい」・「次世代自動車も選択肢に含め、検討したい」人の割合の合計



## 2025年度 環境に関する企業意識調査の結果(概要)

横浜市では、2025年6月から7月にかけて、横浜市に本社または事業所を置く企業3,000社を対象に、環境に関する意識調査を実施しました。調査結果は、今後の環境施策の検討・企画における基礎資料として活用します。

注：各グラフの割合の値は、四捨五入した数値となっています。

そのため、グラフ内の数値をすべて足し上げても、100%にならない場合があります。

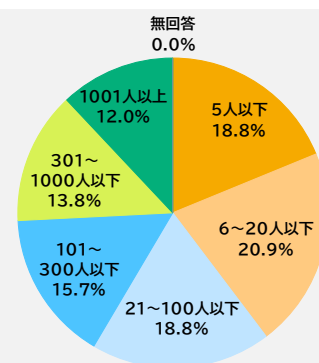
### ◆調査概要

●期間： 2025年6月18日(水)～7月25日(金)

●対象： 横浜市に本社を置く企業及び  
市内に事業所を置く企業3,000社  
(総務省統計局が保有する  
事業所母集団データベースから  
従業員規模別に抽出)

●方法： 郵送による調査

●回答： 809件(回収率27.0%)



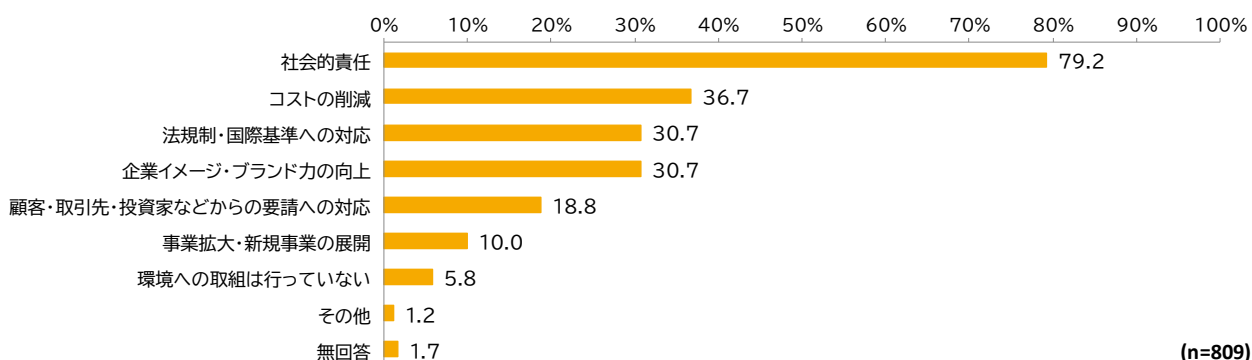
### ◆調査結果

#### 1 環境への取組の考え方について

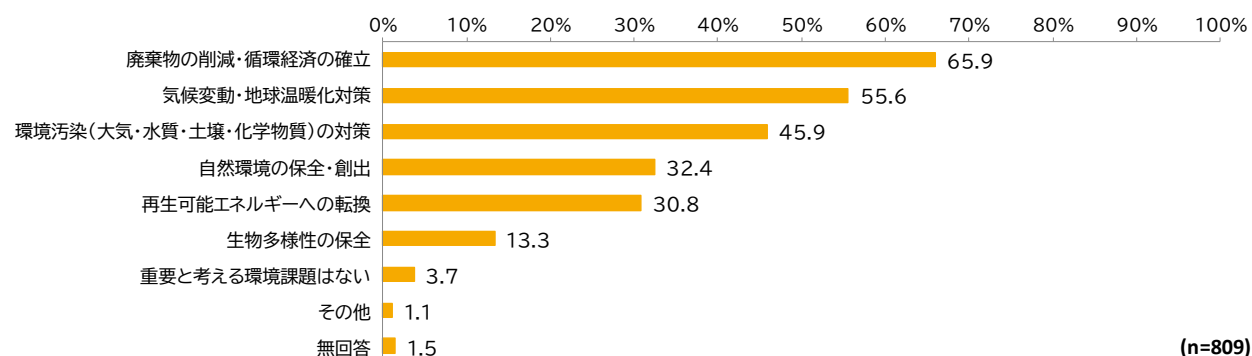
##### ➤ 取り組む目的、重視する環境課題、経営方針への盛り込み

- ・ 環境への取組を行う目的について、「社会的責任」が79.2%で最多
- ・ 重要と考える環境課題は、「廃棄物の削減・循環経済の確立」が65.9%で最多
- ・ 環境課題への取組を経営方針に盛り込んでいる企業は47.2%であり、従業員規模が大きいほど盛り込んでいる割合が高い傾向がみられた

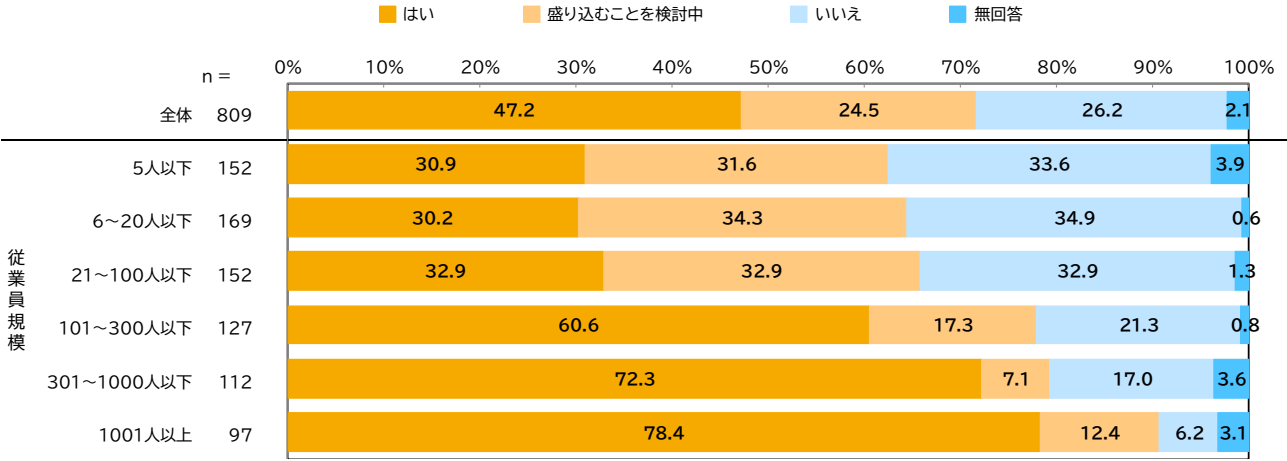
問1 貴社の事業活動において、環境への取組を行う目的は次のうちどれですか。【選択はいくつでも】



問2 貴社の事業活動を継続する上で、重要と考える環境課題は次のうちどれですか。【選択はいくつでも】



問3 経営上の方針に、環境への配慮や取組・目標を盛り込んでいますか。【1つ選択】



➤ SDGsの取組

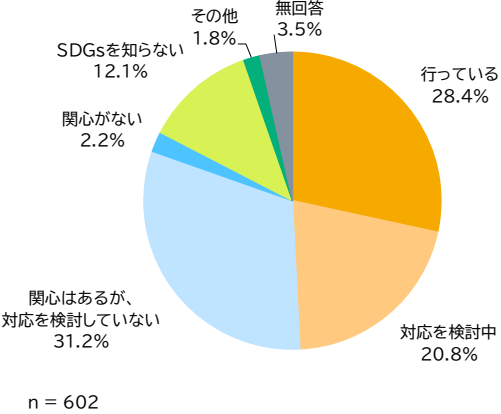
- ・ SDGsの取組状況について、2021年度調査と比べ、2025年度調査では「行っている」割合が12.8ポイント増加し、「SDGsを知らない」割合は9.3ポイント減少
- ・ 従業員規模が大きいほど「行っている」割合が高い傾向があり、1001人以上では8割弱と高い

問5 貴社では、SDGs※(持続可能な開発目標)への貢献の視点を持った経営、事業活動を行っていますか。【1つ選択】

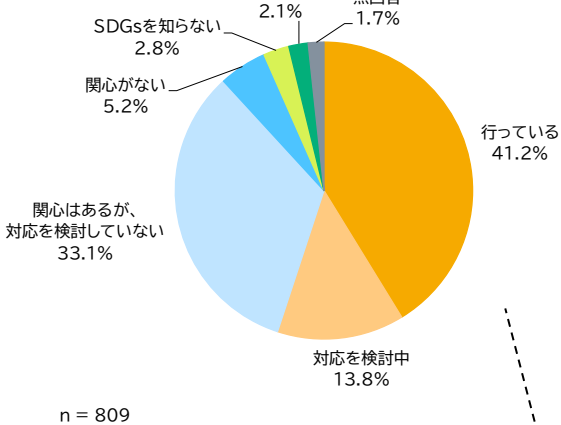
※:2015年に国連で採択された環境・経済・社会の諸課題を統合的に解決するための17の目標と169のターゲット

●経年比較

2021年度調査

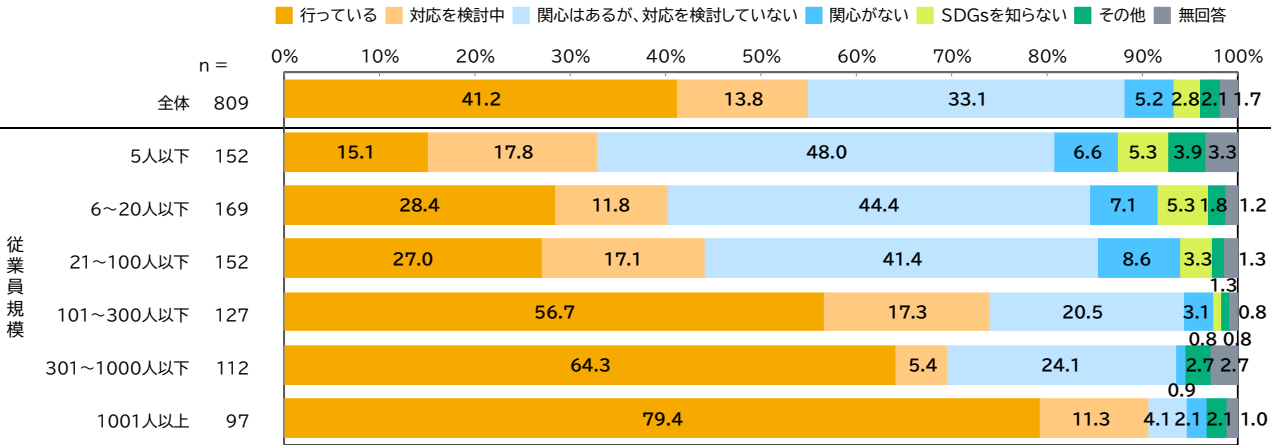


2025年度調査



●従業員規模別集計

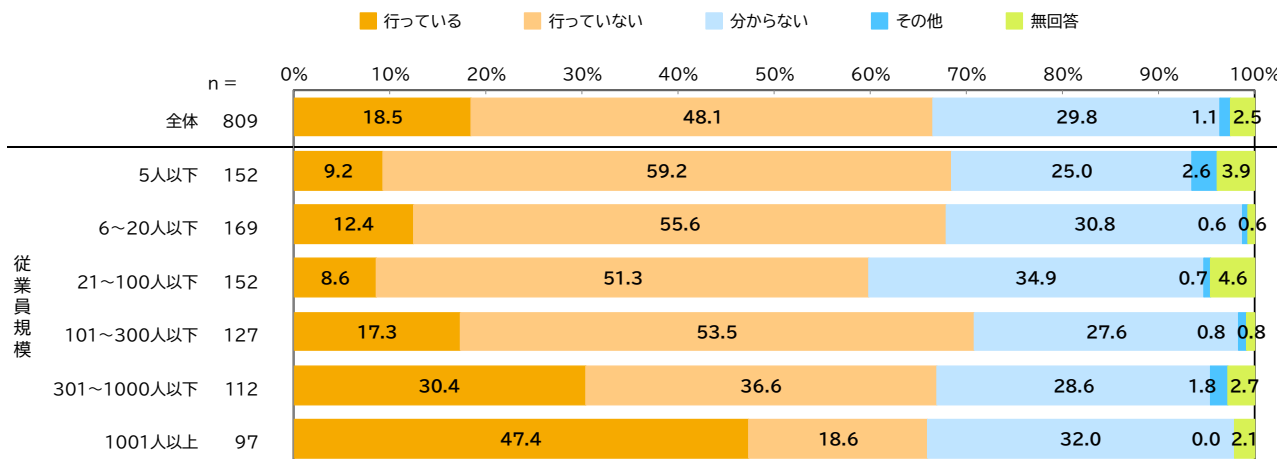
2025年度調査 従業員規模別集計 ※本グラフでは、構成比0.0%のデータラベルは掲載を省略しています



## ➤ 生物多様性に関する取組

- ・ 生物多様性保全の視点を持った経営、事業活動を「行っている」割合は18.5%、「行っていない」割合は48.1%
- ・ すべての従業員規模で「分からない」が30%前後
- ・ 従業員数1001人以上の企業では47.4%が「行っている」

問7 私たちの暮らしや経済は、豊かな生物多様性により生み出される自然の恵みによって支えられています。貴社では、生物多様性保全の視点を持った経営、事業活動を行っていますか。【1つ選択】



## 2 環境への取組状況

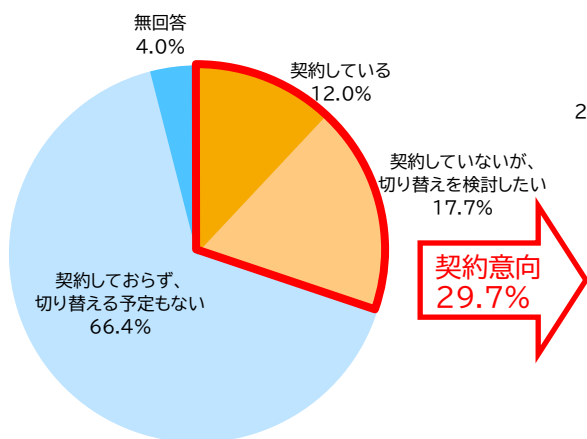
### ➤ 再生可能エネルギー由来の電気の契約状況

- ・ 再生可能エネルギー由来の電気を「契約している」割合は12.0%
- ・ 再生可能エネルギー由来の電気を使用する理由は「社会的な要請に定める」が61.3%で最多。

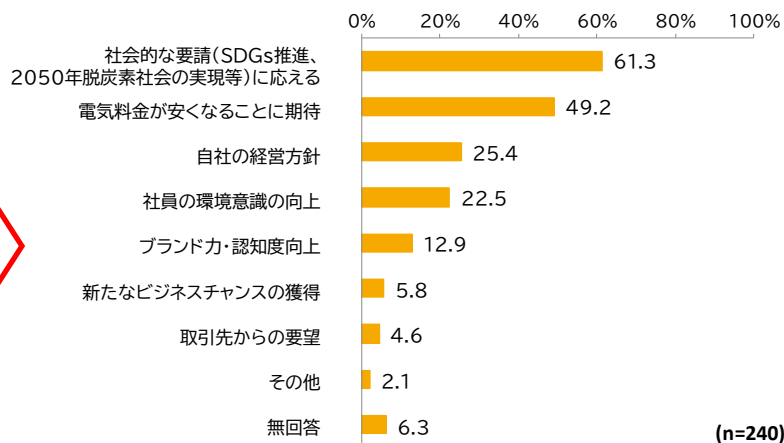
問8 再生可能エネルギー由来の電気を契約していますか。【1つ選択】

問8-1 再生可能エネルギーの電気を使用する理由は何ですか。【選択はいくつでも】

(問8で「契約している」「契約していないが、切り替えを検討したい」と答えた企業)



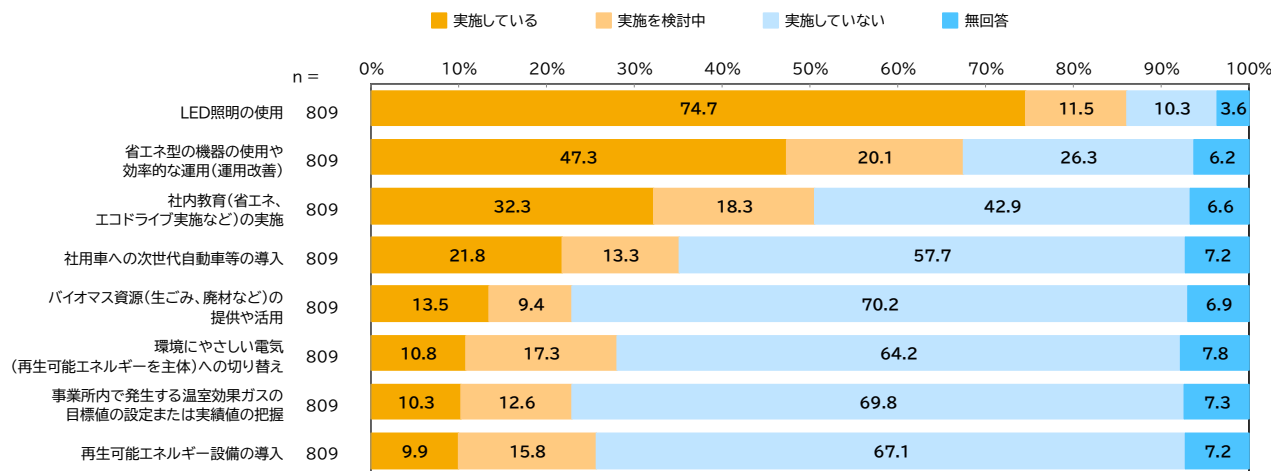
n = 809



## ➤ 脱炭素化の実現に向けた取組

- 脱炭素化の実現に向けた取組について、〈LED照明の使用〉を「実施している」割合が74.7%で最も多く、次いで〈省エネ型の機器の使用や効率的な運用(運用改善)〉が47.3%、〈社内教育(省エネ、エコドライブ実施など)の実施〉が32.3%と続いている

問10 横浜市では2050年までの脱炭素化を目指しており、温室効果ガス排出量削減の取組を推進しています。貴社では、次に挙げる脱炭素化の実現に向けた取組を行っていますか。【それぞれ1つ選択】



## ➤ プラスチックの資源循環に向けた取組

- プラスチックの資源循環に向けた取組について、〈プラスチックの分別・リサイクルの徹底〉を「実施している」割合が81.2%で最も多く、次いで〈事業場内にプラスチックを専用に分別するごみ箱を設置〉が69.8%と続いている

問11 プラスチックは軽量で丈夫、加工もしやすいことから、様々な製品に利用される一方、海洋汚染や生態系の破壊などプラスチックが引き起こす様々な環境問題が世界規模での課題となっています。これらの問題に対応していくには、プラスチックの資源循環を加速していく必要があります。貴社では、次に挙げるプラスチックの資源循環に向けた取組を行っていますか。【それぞれ1つ選択】

